

東京湾の水質状況

1 生活環境の保全に関する環境基準（海域）

(1) 化学的酸素要求量（COD）

項目 類型	利用目的の適応性	基準値	
		化学的酸素要求量（COD）	
A	水産1級 水浴 自然環境保全及びB以下の欄 に掲げるもの	2mg/L 以下	
B	水産2級 工業用水 及びCの欄に掲げるもの	3mg/L 以下	
C	環境保全	8mg/L 以下	

※自然環境保全 : 自然探勝等の環境保全

水産1級 : マダイ、ブリ、ワカメ等の水産生物用及び水産2級の水産生物用

水産2級 : ボラ、ノリ等の水産生物用

環境保全 : 国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

(2) 全窒素 全りん

項目 類型	利用目的の適応性	基準値	
		全窒素	全りん
I	自然環境保全及びII以下の欄 に掲げるもの (水産2種及び3種を除く。)	0.2mg/L 以下	0.02mg/L 以下
II	水産1種 水浴及びIII以下の欄に掲げる もの (水産2種及び3種を除く。)	0.3mg/L 以下	0.03mg/L 以下
III	水産2種及びIVの欄に掲げる もの (水産3種を除く。)	0.6mg/L 以下	0.05mg/L 以下
IV	水産3種 工業用水 生物生息環境保全	1mg/L 以下	0.09mg/L 以下

※自然環境保全 : 自然探勝等の環境保全

水産1種 : 底生魚介類を含め多様な水産生物がバランス良く、かつ、安定して漁獲される

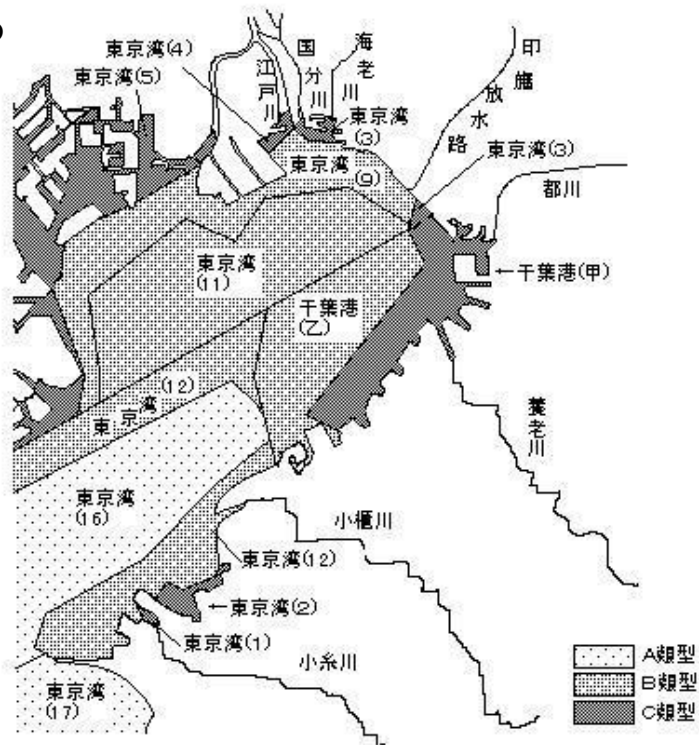
水産2種 : 一部の底生魚介類を除き、魚類を中心とした水産生物が多獲される

水産3種 : 汚濁に強い特定の水産生物が主に漁獲される

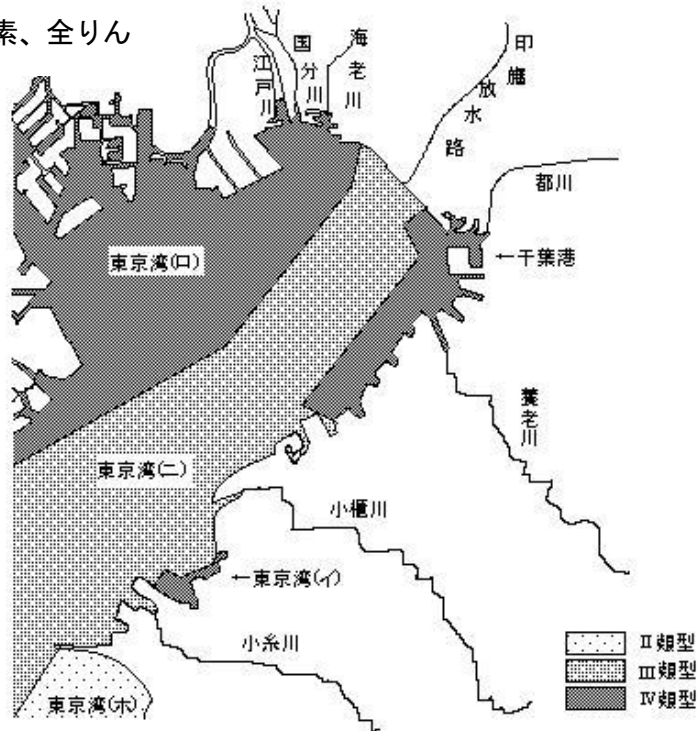
生物生息環境保全 : 年間を通して底生生物が生息できる限度

東京湾における類型指定図

(1) COD

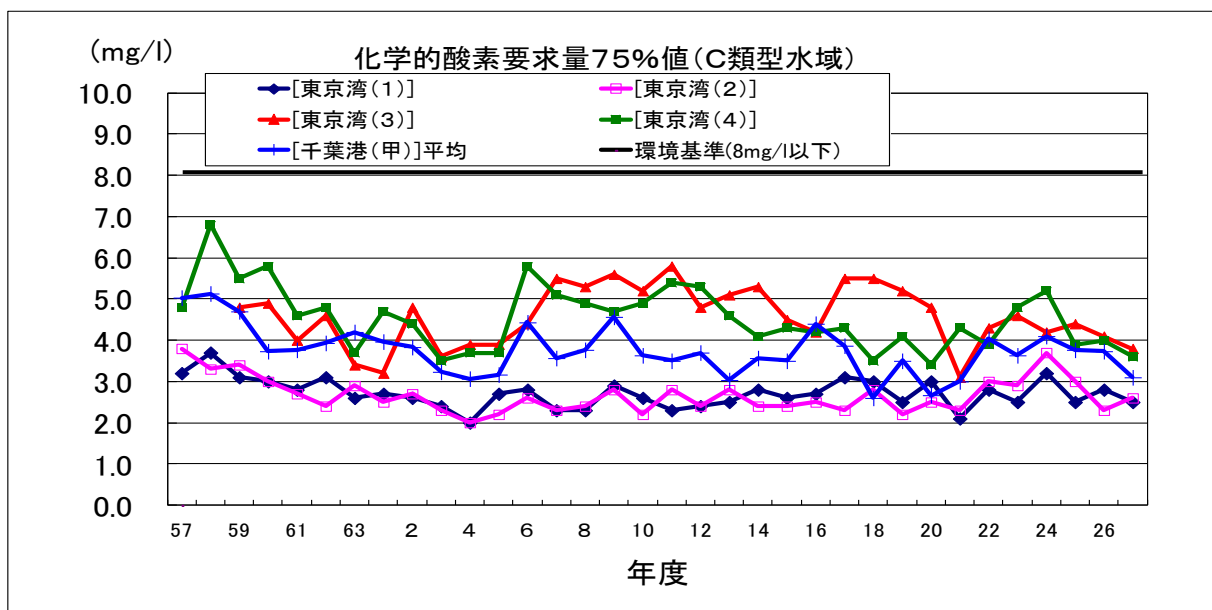
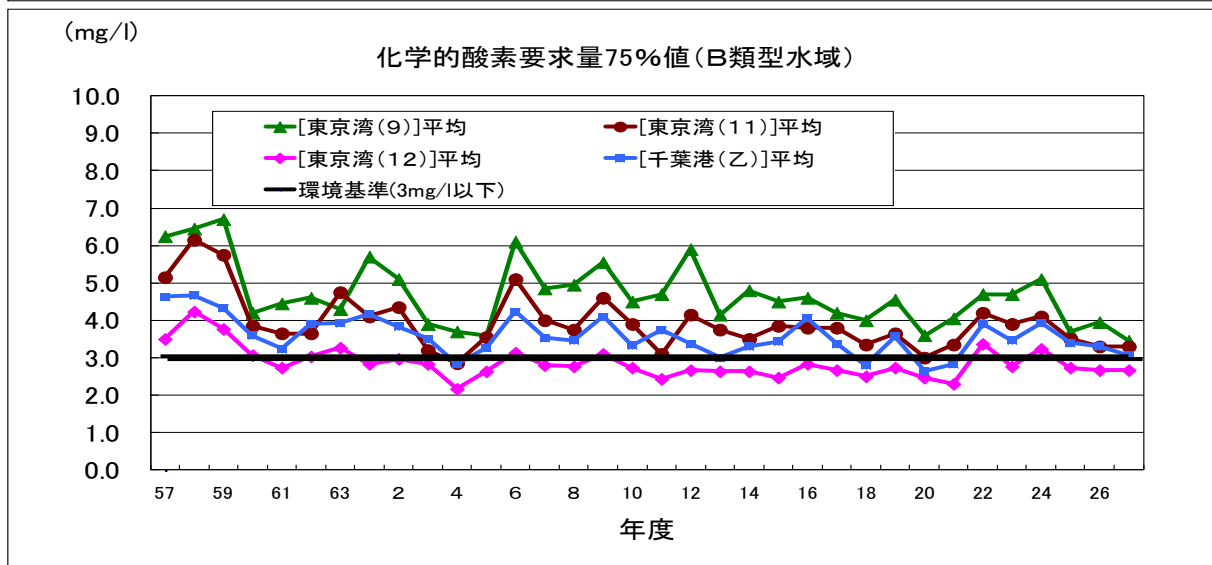
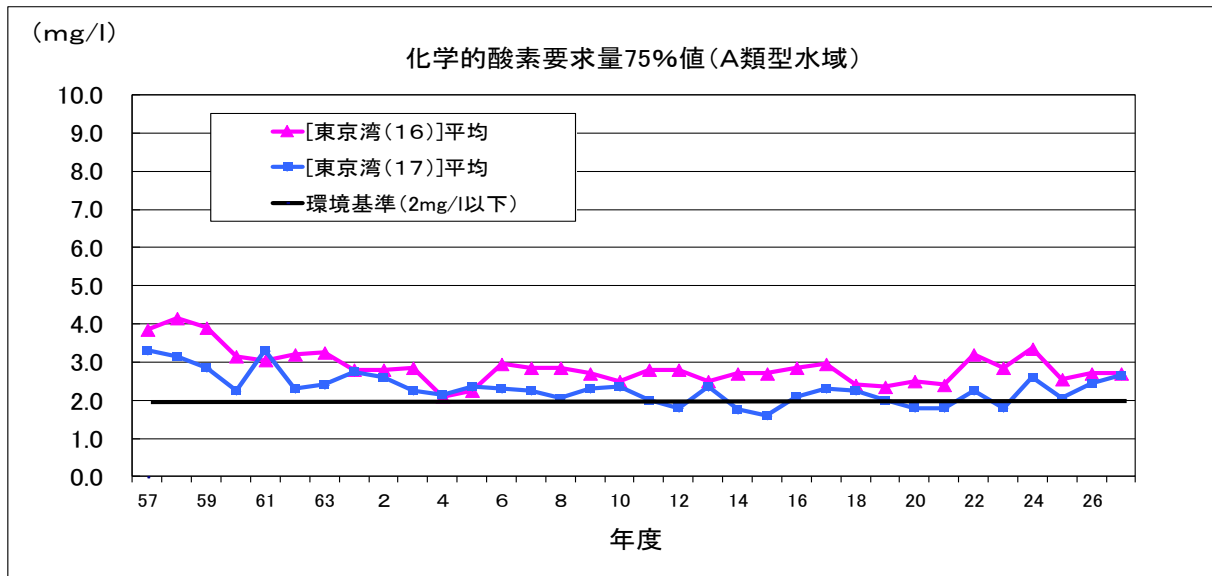


(2) 全窒素、全りん

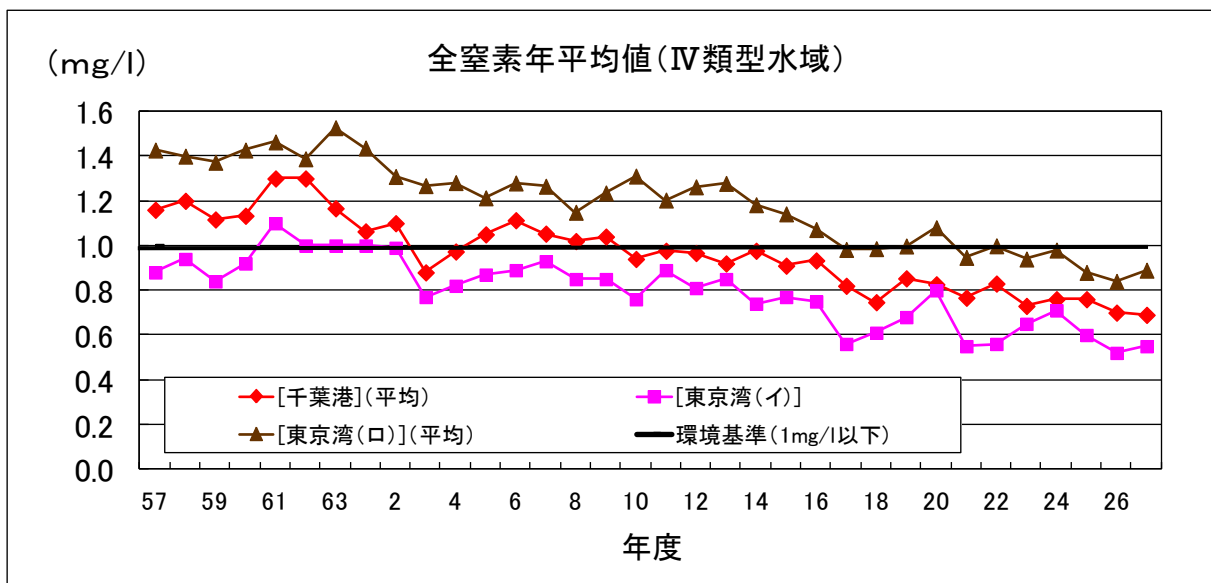
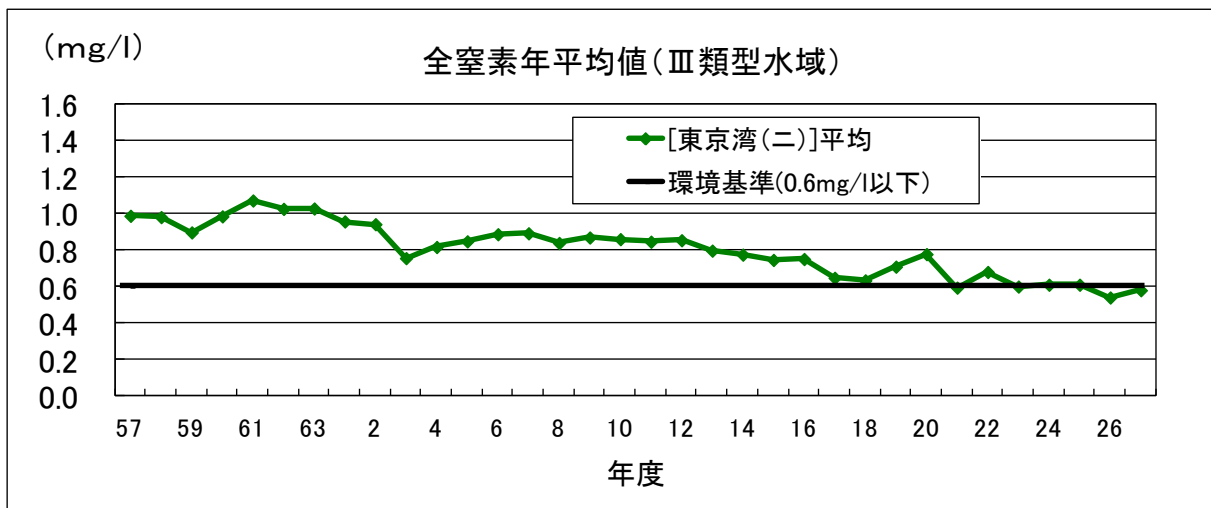
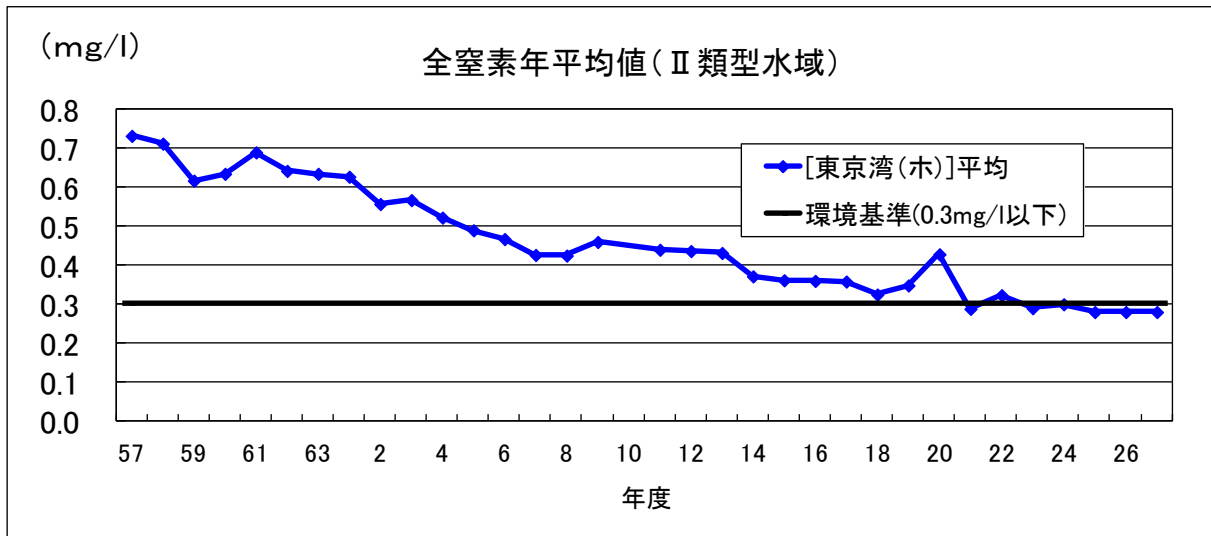


2 化学的酸素要求量 (COD)、全窒素 (T-N)、全りん (T-P) の水質状況

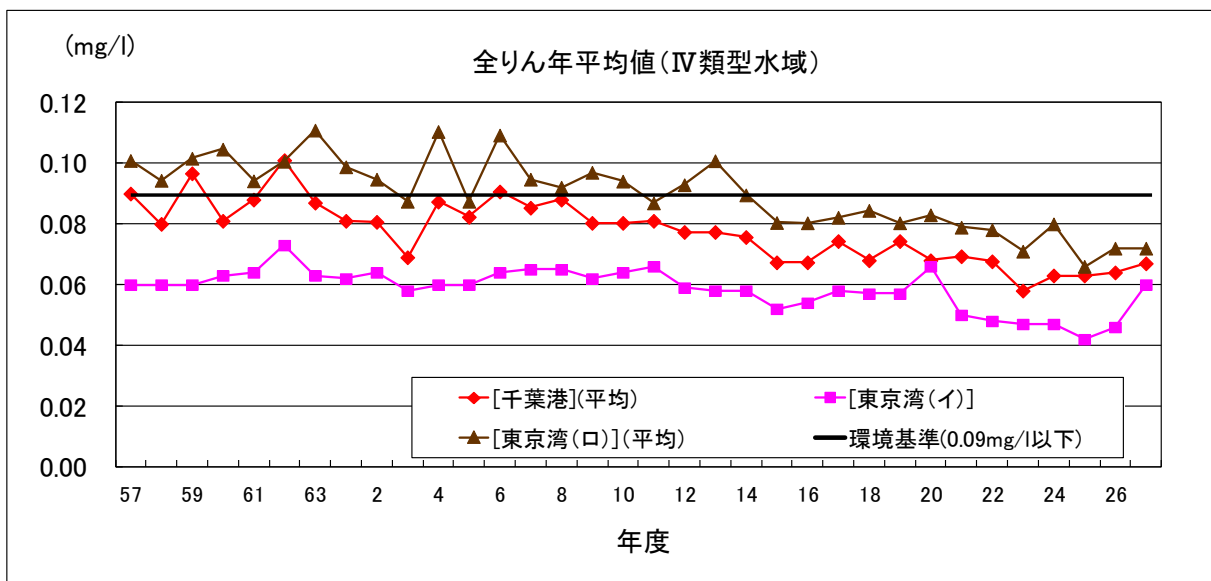
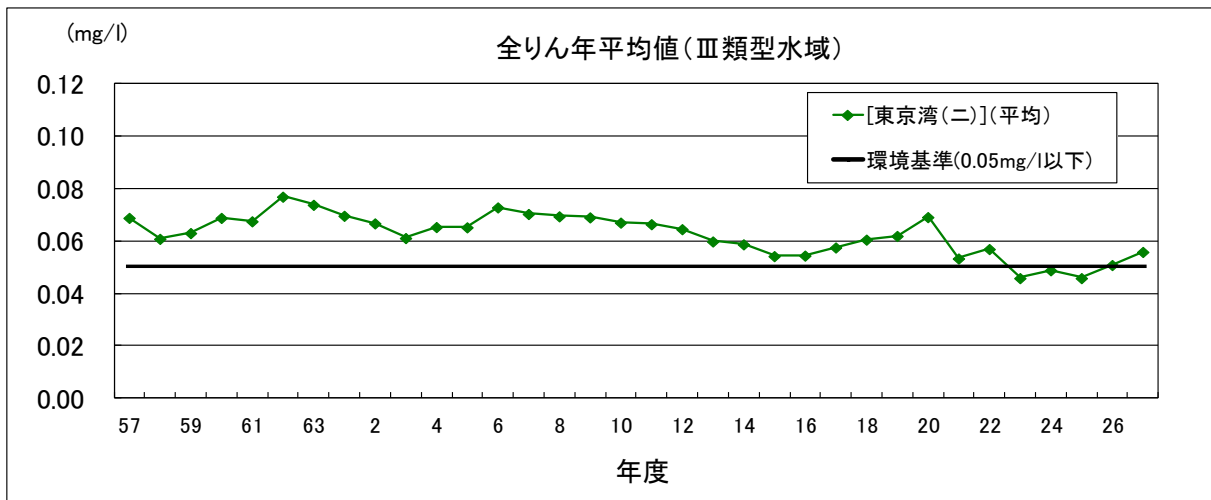
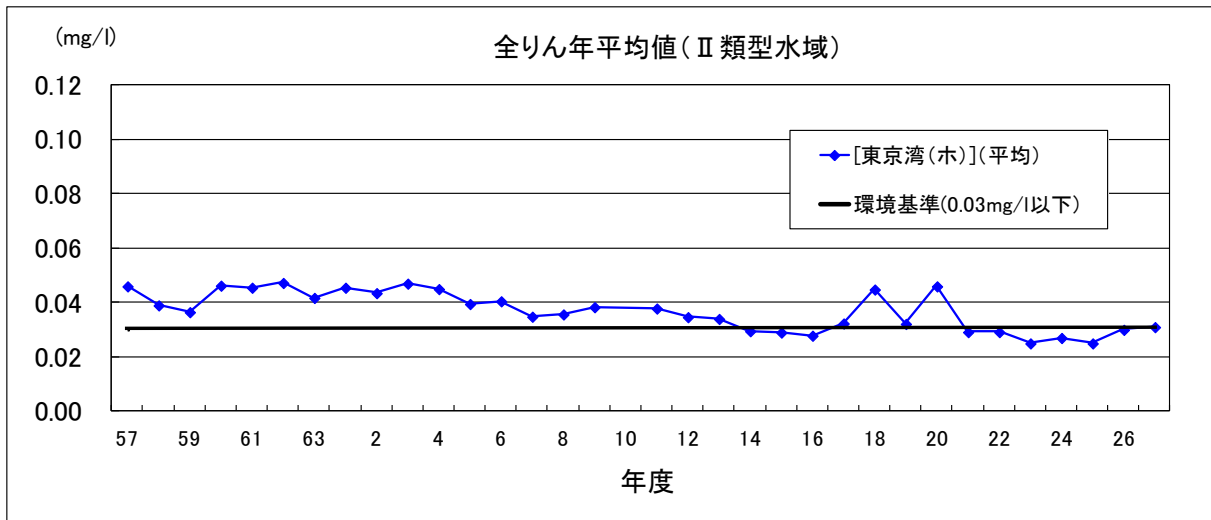
(1) 化学的酸素要求量 (COD)



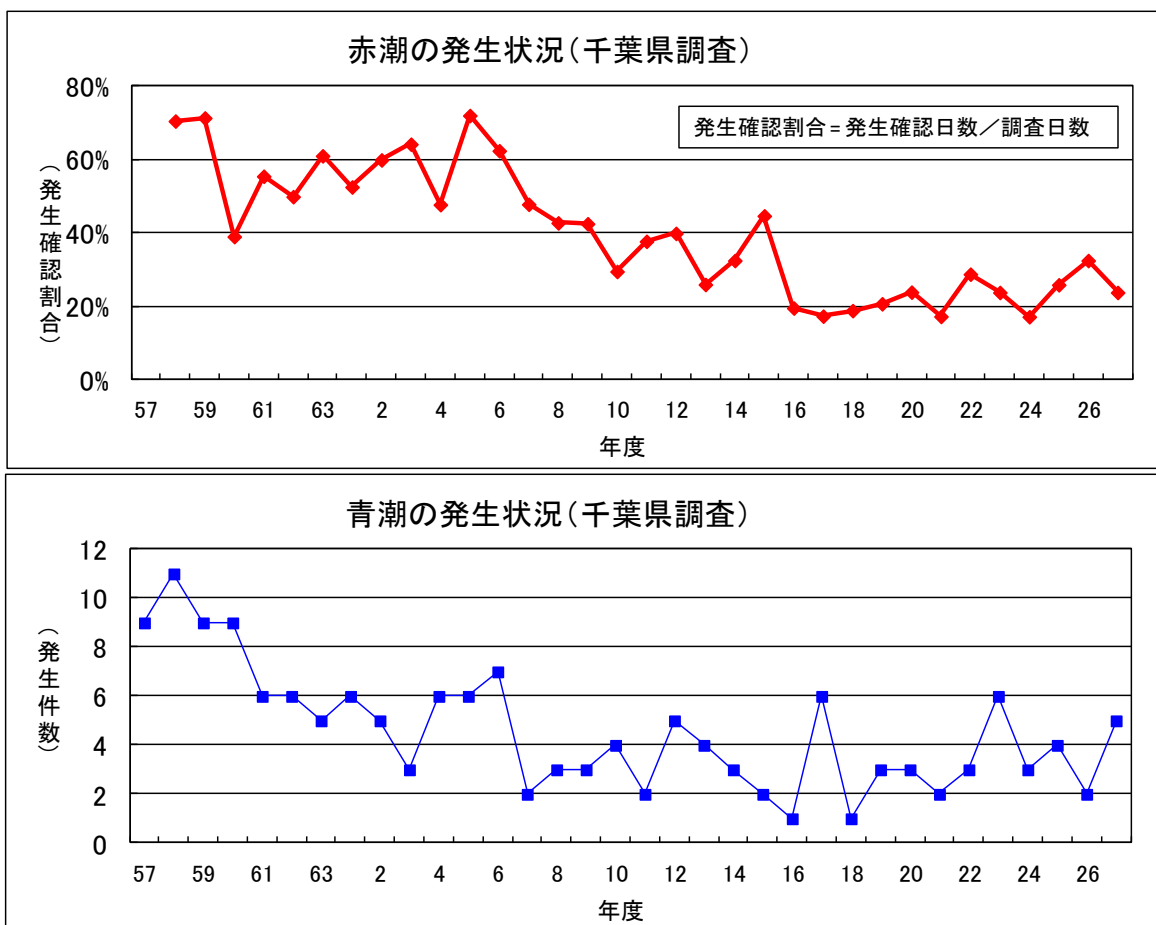
(2) 全窒素 (T-N)



(3) 全りん (T-P)



3 赤潮、青潮の発生状況



近年の青潮の発生状況

【平成26年度】

発生時期	発生場所・被害状況
6月6日～ 6月10日	千葉中央港～市川港沖 直接的な漁業被害：なし
8月27日～ 9月3日	千葉中央港及び花見川河口沖～市川港沖 直接的な漁業被害：三番瀬でアサリの被害 (計：4,180t、減少率：61%)

【平成27年度】

発生時期	発生場所・被害状況
5月30日～ 5月30日	千葉中央港、稲毛～茜浜、船橋港～市川港沖 直接的な漁業被害：なし
6月20日～ 6月22日	千葉中央港、稲毛～茜浜、船橋～市川 直接的な漁業被害：なし
8月10日～ 8月13日	千葉中央港、千葉新港、船橋航路、市川航路東側 直接的な漁業被害：なし
8月24日～ 9月1日	浦安～市原（養老川河口） 直接的な漁業被害：なし
9月26日～ 9月30日	船橋港～千葉中央港 直接的な漁業被害：なし

【平成28年度】

発生時期	発生場所・被害状況
6月14日～ 6月15日	千葉中央港内、検見川～幕張、海老川河口 直接的な漁業被害：なし
8月29日～ 8月31日	千葉中央港内、船橋航路、猫実川河口（一部三番瀬漁場内） 直接的な漁業被害：なし